



PETRI PENTA

V₂

ペトリカメラ株式会社

本社・工場 東京都足立区梅田町1
東京センター 東京都千代田区九段一丁目5
大阪センター 大阪府南区東船場1丁目4
名古屋センター 名古屋市中区梅田町1丁目5
九州センター 福岡市片土船町1丁目3
北海道センター 札幌市南七条西1丁目5丁目
ペトリカメラ・K.V.
ペトリカメラ・コーポレーション・オブ・オーストラリア



INSTRUCTION BOOK

性能表

形 式	完全自動絞りのペネタブリオ ムープレマ
使用フィルム	35mmフィルム 2011・36枚巻
画角サイズ	24×36mm
標準レンズ	ペトリ F2 35mm、コンビ ル・シヤン・コーティング
シャッター	フォーカルプラン 1軸不 動ダイヤル 1/30 1/60 1/125 1/250 1/500 1/1000 1/2000 1/4000
ファインダー	ペネタブリオムファインダー
焦点調節	マルチレンジ、コンデンサ ー照明 マイクロメータ式 焦点調節
フィルム巻上	一作動レバー巻上げ 引込糸 付内蔵 巻上角30°
レンズの構造	F2、5画素切替式
レンズ交換	専用コネクトマウント
その他	セルマダイマー内蔵 割のシ ャッターボタン クラシク式 巻戻し 自動巻きフィルム捲 取計 アイックリアダー式リ ター 二重露光防止

ペトリ ペネタ V2
T8

その6つの特長

1

ベトリ独特の
完全自動絞り装置

シャッターボタンを押すだけで、ペンタプリズムは一回の回りで次のような動きをします。

- ①ミラー（反射鏡）がはねあります。
- ②絞りがあらかじめセットしておいたF値まで絞られます。
- ③シャッター幕が走り露光されます。
- ④ミラーが下がります。（ダイヤル・リターン）
- ⑤絞りが開放に戻ります。

これら一連の動きが、順序正しく、すべて自動的に行われる。これがベトリ独特の新設計完全自動絞りです。

このペンタプリズムの完全自動絞り方式によって、露光時にファインダー映像が揺えるという一般的な欠点や、絞りごとに絞りに気をつかれなければならないといった面倒さが一挙に解決され、速写向きカメラとなったことは、明瞭な理由といえます。

2

明るく見やすい
ペンタプリズムファインダー

フレネルレンズとコンデンサーを採用しておりますから、画面の隅々まで明るく照らして、どんな暗い被写体でも露光割合や絞り値の設定が容易にできます。また、ピント調節は特殊マイクローメータ式焦点調節によって、合わせやすく一段と正確に、しかも迅速に行えます。

ピントの合わせ方——アイピースからファインダーをのぞきながら、ヘリコイドリングを回します。画面がシャープに見える位置があります。そこがピントの合ったところですが、この場合、特殊精密焦点調節装置を利用すると一段と確です。

マイクローメータ式精密焦点調節装置の見方——視野の中央にある①（上図参照）は、無限遠レンズ群から来ていて、ピントが合っているときはその外側の透明部②と同じようにはっきり見えますが、少しでもピントがはずれると縁がぼやけ、③は露光時間決定機構の部分です。（露光時間値については④参照）

3

描写力の豊かな
ベトリF2 55mmレンズ

標準レンズとして取付けられているベトリF2 55mmレンズは、高級カメラを得意にした4群8枚構成のトップレベルをゆく優秀なレンズです。開放時はすっきり除かれ、絞り開放で撮影してもすばらしい解像力を示します。つまりピントがとびぬけてよい上に、独特の持ち味があるのです。

また、透過光を完全に無色にするようにコンタクトコーティングを施してありますので、黒白撮影ばかりでなく、カラー撮影にも最高の効果を発揮します。

絞り目は2 2.8 4 5.6 8 11 16の7段階で、目盛ごとにクラッチストップ装置がついており、暗い所でも止めやすくになっています。

距離目盛はφ（無限大）10 5 3 2 1.5 1.2 1 0.8 0.7 0.6メートルで赤外線用のマークがあり、描写解像度目盛（線対）も刻まれています。

4

調節のできる
セルフタイマー内蔵

ベトリF2 55mmのボデーにはセルフタイマーが内蔵され、セルフポートレートや記念撮影が自由にできます。チャージしてから約5秒後にシャッターが切れますが、もっと短かい時間を望む場合はレバーの回転を少なくしますと、数秒単位までの間、適当な長さに調節することができます。

セルフタイマーの使い方——セルフタイマーレバーを上図左の矢印の方向に180度押し下げ、上図右に示すセルフタイマーボタンを押せばよいのです。

●セルフタイマーの作動時間を短くしたい場合は途中位置までセットしたままでセルフタイマーボタンを押します。

●セルフタイマーのセットはフィルムの上上げ前でもしても構いませんが、セルフタイマーの作動は巻上げ後に行います。（シャッターボタンに手をふれる必要はありません）

●φ（バルブ）以外の高速度に使用できます。

5

使いやすい一軸不回転式
シャッターダイヤル

ペトリオネアⅡには標準的な安定と耐久性に留意して設計されたフォーカルプレックスシャッターが組み込まれていますが、アリアスストップ付の大型シャッターダイヤルは低速から高速まで、各露光が1軸上に等間隔に刻まれているのでおのれやすく、しかも不回転式ですから、フィルムを巻上げる前でも後でも、シャッター速度をおかせることができます。シャッターダイヤルの合わせ方——シャッター速度は絞りと同に露出を定める大切な要素です。シャッターダイヤルに指をかけ、そのまま軽く回して速度を示す数字を緑色の指標にあわせると、(数字の裏は1秒の写、500は1秒の写)を意味します。Bはバルブといって、シャッターボタンを押している間中シャッターが開いていますから、長時間露出のときに使います。また、赤文字のXはストロボによるシャッター制御を行うときに合わせる目盛です。]

6

簡単に切替えられる
Auto Manual 絞り

ペトリオネアⅡは完全自動絞りですから、シャッターを切る瞬間だけ所定の数字に絞られますが、手動絞り開放状態になっています。そこで、実際に写される画像、つまり絞ったときの状態を見たいときには、完全自動絞りを解除して実際に絞りを絞った上でのぞくこととなります。これによって露写露深度(実際にピントの合う範囲)を確認することができます。ペトリオネアⅡではこの普通絞りへの切替えが極めて簡単にできます。

Auto-Manual 絞りの切替え方法——鏡筒の奥手にあるオート・リングを回して、Auto(オート)の数字を真上にすれば完全自動絞りが働いています(通常はこの状態で撮影します)。Manual(マニュアル)の数字を真上にしますと、完全自動絞りが解除されて手動絞りとなり、絞り目盛に合わせて実際に絞りが絞られます。手動絞りのまま撮影しても支障ありません。

豊富なベトリ交換レンズ

各種ガラスを採用し、カラープロローコーションがされた高画質力のベトリ交換レンズが各種用意されております。これらを使い分けることによって、撮影範囲を一層広くすることができます。

ベトリ交換レンズの種類と価格

F2.5	35mm(広角・オート)	¥15,000
F2.8	35mm(望遠・オート)	¥19,000
F4	200mm(望遠・プリセット)	¥18,000
F2.8	300mm()	¥24,000
F5.6	400mm()	¥28,000
F8	500mm()	¥45,000

レンズ交換はこんなに簡単!



鏡筒裏面にあるバヨネット取付け用リングを左へ回かし、指標(赤ボタ)を真上にして、そのまま押し上げれば、そのままはずれます。接着はこの通りの操作をします。

ベトリ交換レンズ(ネジ込式)を使用するときは、アダプターリングを交換レンズにおなじこんでバヨネットとした上でボデーに取付けるければなりません。専用の標準レンズは、その必要がありません。



F 2.5 35mm (広角)



F 2.8 35mm (長焦点)



F 4 200mm (望遠)



F 2.8 300mm (望遠)

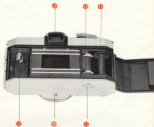


各部の名称



- ①フィルム巻上げレバー
- ②シャッターダイヤル
- ③マウント蓋取除きリング
- ④シフト機構目盛りレバー
- ⑤フィルム枚数計
- ⑥フィルム巻戻しボタン
- ⑦表示
- ⑧セルフタイマーレバー
- ⑨シャッターボタン
- ⑩ベトリダオ15mmレンズ
- ⑪シフトボタン・ミナル
- ⑫アイピース

- ⑬スプリケット
- ⑭巻戻きスプール
- ⑮1/30秒・半ポックス
- ⑯絞り穴
- ⑰リターンボタン
- ⑱ヘリコイドリング
- ⑲絞開閉係
- ⑳絞開閉係調整ネジ
- ㉑絞り目盛
- ㉒コートリング
- ㉓マウント



着てん上のご注意

- フィルムを着てんは撮影時完了を待たずに目録で行いましょう。
- 液晶を開いてレバーを巻上げる際、巻戻しアランプが矢印と逆の方向に向っていればフィルムが正しく巻上げられていると判断されます。



1. フィルムの先端を巻取りスプールの溝にさしこむ
巻戻しアランプをつまんで、点まる所まで引き出します。これでパトローネボックスにフィルムを納めることができます。

2. 巻戻しアランプを引出す
フィルムの先端を巻取りスプールの溝にさしこみ、先端からまっすぐまっ直のパーフォレーション（フィルムの乳孔）を通り糸絡に引っかかります。



3. 巻上げレバーを操作する
巻上げレバーを操作して、巻取りスプールのフィルムを1回転巻いてみます。

フィルムの入れ方

1. 裏蓋をあける
裏蓋開閉レバーに力をかけて引くと、裏蓋がスプリングの力で開きます。このと同時にフィルム枚数計が（-3）の位置に自動的に回ります。

2. フィルム枚数計が0になるまで巻き戻す
シャッターを開き、更にレバーを巻上げてもう一度シャッターを開きます。撮影直前にもう一度フィルムを巻上げればよいです。（1枚目の撮影直前より枚数計は1歩位に合っています。）



3. 裏蓋を閉める
裏蓋を閉めて再びパトロンと自動的に回ります。



ベトリベンタV2の構え方



両手はしっかりとカメラのグリップを握り、人差し指が斜角30度のシャッターボタンに軽くふれ、いつでもシャッターが切れるようにしておきます。左手は下からレンズの後部を支えてみりなく焦点を調節ができるようにヘリコイドリングを保持します。目はカメラを覗きしないように固定した持ち方をすることが大切です。写真を撮照してください。

ファインダーののぞき方

ベトリベンタV2のファインダーは大きくて保護をかけたままでものぞけます。のぞき方がまがっていても視野は狂いませんが、なるべく眼を近づけて中央からまっすぐのぞくようにしましょう。

ピントの合わせ方

上記の構え方のまま、被写体を視界の中心に置いてヘリコイドリングを回転し、標識焦点視測部の僅かシャープに見える所で止めます。標識焦点視測部については、写真を撮照してください。

露出のきめ方

露出はシャッター速度と絞りの割合で決まります。シャッター速度はシャッターダイヤルを回して速度目盛を指標に合わせ、絞りのF値は絞り目盛のついているリングを回して指標に合わせればよいのです。

露出のきめ方は明るい程度にシャッター、小さな絞りをを用い、暗い程度にシャッター、大きな絞りをを用いるのが基本ですが、具体的に以下記の露出表をご参照になるか、更に正確には、小型電算露出計・レトノメーターをご利用になることをおすすめします。

また、光量の調節以外に物体を写しとめるには速いシャッターでなければならぬとか、奥行きの深い被写体は小絞りしないと全部シャープにならない(被写界深度)などといった問題がありますから、露出の決定に際してはこれらのことも考慮しなければなりません。

四角の露出表 晴天・太陽上・順光

シャッター速度	絞り・F値	1/1000	1/500	1/250	1/125	1/60
1/1000 (1/1000)	F 16	F 11	F 8	F 5.6	F 4	F 2.8
1/500 (1/500)	F 11	F 8	F 5.6	F 4	F 2.8	F 2
1/250 (1/250)	F 8	F 5.6	F 4	F 2.8	F 2	F 1.4
1/125 (1/125)	F 5.6	F 4	F 2.8	F 2	F 1.4	F 1

※露出はシャッター速度と絞りの割合で決まります。明るく写すにはシャッターを速く絞りを大きく、暗く写すにはシャッターを遅く絞りを小さくします。また、露出のきめ方は、小型電算露出計・レトノメーターをご利用になることをおすすめします。

方々の露出表 晴天・太陽下・順光

シャッター速度	絞り・F値	1/1000	1/500	1/250	1/125	1/60
最も早いシャッター速度	F 16	F 11	F 8	F 5.6	F 4	F 2.8
露出の標準値	F 11	F 8	F 5.6	F 4	F 2.8	F 2
暗い露出値	F 8	F 5.6	F 4	F 2.8	F 2	F 1.4

この表は露出の標準時間から最も時間短縮までの適用します。露出は半絞りし、半絞りは半絞り減して下さい。

被写界深度とは



カメラの露出目盛に対応して刻まれている数字は被写界深度を示すものです。被写界深度とは一点にピントを合わせたとき、その前後に生じる鮮明に写る範囲のことですが、これは小絞りにする程、また露出値になる程狭くなる性質をもっています。上記はピントを1.0メートルに合わせた場合ですが、例えばF11に絞ったときおおよそ1.2メートルから1.8メートルの間が鮮明に写ると判明されます。露出目盛のF11の位置にある赤い線は赤い線の場合の指標で、一点にピントを合わせた被写界深度をこのままですすことを指示しています。(赤い線は)

レトリ F2.8 55mm 被写界深度表(メートル)

F値	2	2.8	4	5.6	8	11	16
4.4	0.507 (0.497)	0.389 (0.432)	0.285 (0.325)	0.215 (0.245)	0.171 (0.191)	0.143 (0.158)	0.114 (0.125)
4.7	0.489 (0.479)	0.380 (0.423)	0.279 (0.319)	0.211 (0.241)	0.167 (0.187)	0.140 (0.155)	0.111 (0.122)
5.0	0.473 (0.463)	0.364 (0.407)	0.263 (0.303)	0.195 (0.225)	0.151 (0.171)	0.124 (0.139)	0.095 (0.106)
5.6	0.429 (0.419)	0.320 (0.363)	0.219 (0.259)	0.151 (0.181)	0.117 (0.137)	0.090 (0.105)	0.071 (0.082)
6.3	0.395 (0.385)	0.286 (0.329)	0.185 (0.225)	0.117 (0.147)	0.083 (0.103)	0.056 (0.071)	0.037 (0.048)
7.1	0.361 (0.351)	0.252 (0.295)	0.151 (0.191)	0.083 (0.113)	0.049 (0.069)	0.032 (0.047)	0.013 (0.024)
8.0	0.327 (0.317)	0.218 (0.261)	0.117 (0.157)	0.049 (0.079)	0.032 (0.052)	0.013 (0.028)	0.004 (0.015)
9.0	0.293 (0.283)	0.184 (0.227)	0.083 (0.123)	0.032 (0.062)	0.013 (0.032)	0.004 (0.019)	0.001 (0.012)
10.0	0.260 (0.250)	0.155 (0.198)	0.049 (0.089)	0.013 (0.043)	0.004 (0.023)	0.001 (0.016)	0.000 (0.011)
11.0	0.226 (0.216)	0.126 (0.169)	0.032 (0.072)	0.004 (0.034)	0.001 (0.023)	0.000 (0.014)	0.000 (0.010)
12.5	0.192 (0.182)	0.097 (0.140)	0.013 (0.053)	0.001 (0.033)	0.000 (0.021)	0.000 (0.013)	0.000 (0.009)
15.0	0.158 (0.148)	0.068 (0.111)	0.001 (0.041)	0.000 (0.031)	0.000 (0.021)	0.000 (0.013)	0.000 (0.009)
18.0	0.124 (0.114)	0.039 (0.082)	0.000 (0.031)	0.000 (0.021)	0.000 (0.013)	0.000 (0.013)	0.000 (0.009)
20.0	0.109 (0.109)	0.030 (0.073)	0.000 (0.021)	0.000 (0.013)	0.000 (0.013)	0.000 (0.013)	0.000 (0.009)

シンクロ撮影



閃光電球の発光とシャッターの開口を同期させ、暗い所でも明るく写しとめることができるのがシンクロ撮影です。フラッシュガンまたはサテライトシュー（アタカサラーの標準品）に取付け、コードをシンクロターミナル（A）に接続します。次に使用する閃光電球がF品、M品、ストロボのときはシンクロ切替スイッチ（M）をAに合わせ、またF品の場合はFに合わせます。

ここで下記の使用表によってシャッター速度を定め、更に閃光電球の種類と撮影距離から絞りをもとめた上で、シャッターを切ればシンクロ撮影ができます。絞りの設定は使用閃光電球の外側に露出値がつけられていますから、それによって決めてください。

使用表

切替レバー	1/2000	1/1000	1/500	X	1/250	1/125	1/60	1/30	1/15	1/8
F	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
M	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ストロボ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

フィルムの出し方



1. フィルムを巻出す
カメラ後面のリターンボタンを押したまま、巻出しボタンを起こして矢印の方向に回転します。これでフィルムはパトローネに巻き戻されておきます。

2. フィルムを巻出す

巻出しが急に弱くなったら完全に巻戻されたかと判断されますから、裏蓋を開き、巻出しボタンを引出してパトローネを取り出します。



巻戻しの際は

- フィルムを取り出すときも、直前は先下まで引出後で行ってください。
- フィルムが完全に巻き戻されたかどうか不安なときは、フィルム巻上げレバーを操作して、巻出しボタンが目立たなければ、完全に巻き戻されたかと判断されます。
- 写し終ったフィルムはなるべく早めに巻戻をしてしまいましょう。そのまま放置しておくより早く巻戻した方が、いろいろな故障の原因になります。

ベトリベクタV2

の

アクセサリ

ベトリフィルター



Y1 (両面)、Y2 (裏面)、
YA2 (裏面)、R1 (赤)、
PO1 (紫) 各¥1,000
黒ーリV (黒色減光用) ¥1,200

カラー画

第4 (透過)、C4 (透過)
C8 (閃光電球用)、
C12 (写真電球用) 各¥1,200

ベトリ複写リング



レンズとカメラの中間に複写リングをはめこみます。小物像の複写や文紙などの複写ができます。

複写リングには1号、2号、3号とそれぞれ厚さのちがう3種類があり、いろいろに組み合わせれば、あらゆるサイズの複写ができます。

1号¥360 2号¥400 3号¥500

ベトリメーター



超小型スリッパ型センサーの強力反射式電光測光計です。直読式ですから、片手操作で正確な露出を測定できます。これをベクタアクセサリメーターに取付ければ、露出計内蔵カメラと同様の働きをしますから、安心して撮影できます。

¥1,800

ベトリフード



合金使用の丸型、止ネジ式レンズフードで撮影が確実です。内面に反射防止が完了ですから、レンズの写角以外からの有害な光反射を防ぎ、美しい写真が写せます。丸型ですから取付けの角度に気を取る必要もありません。丈夫な黒ケースに入っています。

¥ 990

ベクタアクセサリシュー



カメラの側面のネジ孔に止めて、巻出しクラップの上に固定できる専用アクセサリシューで、マクロシユーズンや別記ベトリメーターを取付けるのに利用します。取付け簡単で安定性がよく堅牢ですから、是非1枚に1個ご用意ください。

¥ 500

アダプターリング マウントリング



アダプターリングはスクリューマウントの交換レンズや複写リングをカメラに取付けるためのリングです。

マウントリングはバヨネットマウントの標準レンズと複写リングを接続するリングです。

アダプターリング¥ 380

マウントリング ¥ 300

複写リングの使い方

複写リングには1号(7.5mm)、2号(15mm)及び3号(20mm)の3種類があり、これを利用できます。80-90mmから22-30mmと近づいて撮影することができます。倍率からいいますと実物大まで写せるわけです。

撮影にあたっては複写リングの長さによって露出距離がかわりますから、使用表によって露出を十分にかけなければなりません。同じ被写体の撮影では4倍ほどかわります。

また複写するほど複写距離が短縮に近くなりますから小絞りを用いて写すことが大切です。